

共同教育学部の5年間を振り返って

松村 啓子

宇都宮大学と群馬大学の共同教育学部は、2020年4月の設置から5年あまりが経過しました。2025年8月に「国立大学法人等の機能強化に向けた検討会」が示した「改革の方針」には、機能強化の方向性に沿った組織の見直しとして「再編統合・連携」が強く打ち出されました。大学間連携による共同教育課程設置の先行例として、日本初、そして唯一の共同教育学部に対する関心は、これまで以上に高まっています。

本稿では、限られた紙幅のなかで、学部設置準備段階から今日までを振り返り、共同学部化による教育上の意義と課題について報告します。

設置準備段階(2017年10月～2020年3月)

2017年8月の「教員需要の減少期における教員養成・研修機能の強化に向けて—国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議報告書一」の公表を受け、宇都宮・群馬の両大学では学長レベルでの協議が進められ、2017年10月に共同学部の設置を視野に入れた「教育学部の連携・協力に関する協議会(宇都宮大学・群馬大学)」を設置しました。

共同教育学部の設置は、少子化の進行とともに教員需要に応じた学部規模の縮小が避けられない事態に備え、中学校10教科フルセットを維持しながら、両大学の教育資源を活かした質の高い教員養成教育を実現するとともに、栃木・群馬両県の義務教育課程に責任をもち、教員研修体制を保証することを目指すものでした。

共同教育課程では、「それぞれの大学において当該共同教育課程に係る授業科目の履修により31単位以上を修得する」(大学設置基準第四十五条)ことが卒業要件とされています。2018年からは、双方の大学の各々31単位、計62単位分を共通化するカリキュラム編成作業を開始しました。両大学の全学生が受講する「齊一科目」は、基盤教育科目のうち8単位、教職基礎科目の全20単位、小学校教科のうち12単位、中学校教科のうち12単位、新設のForefront科目のうち8単位、教職特別演習2単位から構成し、実技を要するものや両大学の学生が一堂に会し対面で実施する教職特別演習を除き、遠隔授業システムを用いて実施することになりました。カリキュラム編成と並行して、他学部にも影響する授業時間の統一、齊一科目を固定したうえでの時間割作成、シラバスや成績評価の入力方法の検討等、教務上の大学間の差異を調整する根気のいる作業が続きました。

共同教育学部の運営にあたっては、学部全体の調整を行う機関として、「宇都宮大学・群馬大学共同教育学部連絡協議会」(年1回開催)、ならびに「宇都宮大学・群馬大学共同教育学部運営会議」(年4回開催)が設置されました。

コロナ禍下での開設から一期生卒業まで(2020年4月～2024年3月)

2年あまりの準備期間を経て迎えた2020年4月、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、学生の入構禁止、全面的なオンライン授業実施という、予期せぬ形での共同教育学部の幕開けとなりました。齊一科目については、教材を両大学それぞれのMoodle(2020年度中に「共同教育学部 LMS」を構築、2025年度からは「群馬大学 LMS」に一元化して両大学の教員・学生が共通で利用)にアップロードし、学生が自習する方法を取りました。そのため、両大学各6教室(2021年度までに各12教室)に設置した遠隔授業システムは、初年度には活用できませんでした。

2021年度からは、当初予定していた遠隔授業システムによる齊一授業を開始しました。齊一授業の運営において課題となったのが、機器トラブルへの対応と、主に受信側に配置する学生教務補佐員(以下SA)の確保でした。前者の機器トラブルでは、通信不良により接続ができず、授業開始までに時間がかかる事例が発生しました。授業担当教員や連絡教員、SAでは解消できないケースも多く、宇都宮大学では任期付きの特命教授および特任助教が、こうしたトラブル対応や機器の保守管理を担当し、トラブル対応マニュアルを整備しました(2024年度以降は、学部教員有志が分担)。後者のSAについては、3・4年生を中心に両大学あわせて年間のべ300名(予備要員を含む)程度を雇用し、前期・後期の授業開始前に機器操作のための講習を実施しています。各授業の担当教員と連絡教員との連携、

機器トラブル対応、SA の募集と出勤表管理にかかる事務は、教員の新たな負担となっています。

2022年に受審した大学機関別認証評価における指摘事項を踏まえ、「宇都宮大学・群馬大学共同教育学部カリキュラム点検・評価委員会」が発足し、同年より内部質保証に係る自己点検・評価の整合性の確保、卒業時アンケートの実施・分析によるカリキュラムの成果検証を行っています。さらに、155単位という卒業単位数の多さを指摘されたため、両大学のカリキュラム専門委員会において、基盤教育科目と Forefront 科目の単位数削減、小学校教科指導法の斉一科目化等のカリキュラム改編を行い、2024年度入学者からの卒業単位数を 140 単位に削減しました。

共同学部化の意義と課題

両大学の教員の専門性を活かした斉一授業により、中学校教科に関する科目の充実や、取得可能な特別支援学校教員免許状の 5 領域(視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱)への拡大が実現しました。斉一授業については、宇都宮大学単独で行う FD のみならず、群馬大学と合同の FD を通じて、継続的な改善をはかっています。2024年度の斉一科目授業評価アンケートでは、Forefront 科目、教職専門科目、分野・専攻専門科目について8割以上の回答者が学習上のメリットを感じると答えています。3年次の「教職特別演習Ⅱ」は、両大学学生が、教育実習の研究授業の振り返りや模擬授業を相互に行い、単独大学では得られない視点や考え方触れ、教職への意欲向上させることに有効に作用しています。両大学運営会議では、教員採用試験の合格率や教員就職率のデータを共有し、希望があれば群馬大学の学生が宇都宮大学の教員採用試験対策セミナーを受講できます。

一方の課題は、上記に述べた遠隔授業システムが更新時期を迎えることによる、斉一科目の安定的実施にとっての大きな懸念材料となっていることです。大学の財務状況が厳しさを増し、かつメーカーが製造を中止するなか、システムの一斉更新を行うことはできません。今後いかなる授業方法を選択したとしても、質の高い斉一授業を行える体制を堅持するために、現在両大学の「斉一科目授業方法検討 WG」で検討を行っています。先駆的事例であるがゆえに困難に直面することも多い5年間でしたが、両大学で情報共有を密にし、これまでに培った互いの伝統を尊重しながら協議を重ね、共同教育学部としての歩みを着実に進めています。

(宇都宮大学共同教育学部長)